

見性院住職からの一言（その十一 最近に思うこと）

今月中旬に行われた曹洞宗宗務庁との話し合いも有意義の内に無事終了しました。まだ曹洞宗も捨てたものでもないとし少し安堵しました。宗務所（教区寺院）側は恨み節のようですが冷静になっていただければと思います。そもそも自作自演であったわけですから。今回の一件は、一寺院の健全運営（不祥事とは無関係）に宗務所・教区が深く介入した極めて珍事であるため後世に語り継がれることになると思います。三者（宗務庁、宗務所（教区寺院）、旧檀信徒の一部（通称：見性院を良くする会）とも私との話し合いを執拗に責め立てますが唯一の条件は今後とも見性院の運営の一切を住職とその寺族、関係者に一任すること以外には応じられません。なぜなら今の見性院は自営業であり住職はオーナーであるからです。独立採算でやっており健全な経営、真摯な布教と理想的な将来性のある寺院が構築されております。人のことに全く興味がない私にはよそのうちのことにあれこれ口出しをしてくる厚顔無恥の人達の考えはわかりかねます。私が逆の立場であったならさっさと辞めていると思います。

今回の壮大なる試みで明確になった大きな収穫は旧檀信徒の意識調査をすることで人の深層心理を知ることができました。中には痛くもない腹をさぐられたと憤慨しておられますが、いた仕方ないことです。これにより信仰心、正義感、勇氣、度胸、人柄、人間関係などありとあらゆる情報を入手することができました。おかげさまで「してやったり」の心境です。

私には現在のところ知力、体力、能力、若さ、将来性と備わっていると自負しております。先代師父は「飲む、打つ、買う」をしない非常に真面目な人でした。祖父も三拍子揃った高僧だったと昔の長老方からよく聞かされたものです。代々、真面目な家系ですから人からとやかく言われる筋合いなど初めから全くなかったのです。よく周囲の人から妬み以外の何物でもないですねといわれます。

私の周辺からはそんなに気に入らないのならいつでもやめればいいのと言う声が出ます。確かに近隣寺院や神社へ行くと私ではなく元役員の方

方々に言われてこられるようですが、その心は「脅し、愚痴、恨み節」のように感じられます。

先日も元役員さんと話していたことですが、「今は人物が本当にいない時代なんですよ、昔のように三拍子揃った人格者、教養人がいないため、大したことの無い人達が好き勝手なことをいって良からぬ方向に持って行ってしまふ。」というのです。ですから、話はまとまらず世の中を間違った道に導くことが最近の地域の流れになっていると聞きました。

確かに先般刊行になった万吉郷土史にもその中心的存在の見性院が、排除、削除となっているのです。「専念寺跡」の看板にも「見性院」の記載は全く無く悪意のある所業としかいいようがありません。おそらくは戦後最悪の人心荒廃時代の真っ只だ中にあるのだと思います。

年金生活者で趣味のない人、あっても農業だけの人、自営業だけしか知らない人などは、人の悪口を言うことが趣味になっています。常に人を妬んで文句を言うことに血道をあげている人がなぜここまで多くなったのか。不穏不況の時代といえるのではないのでしょうか。

いまこそ「こころの時代」「宗教の時代」にしていかないと次代を担う若年層が育たないのではないかと憂うのは私だけでしょうか。

ここで禅宗の開祖 達磨大師と梁の武帝の有名な禅問答（達磨廓然の話）をご紹介します。

達磨大師はインドの高僧で中国に禅を伝えた人です。梁の時代の皇帝、武帝と達磨の対話は禅の核心をつく問答として広く知られています。

武帝：「私はこれまで長きに渡り仏教に帰依をしてきた。寺院を建立し、
仏像を作らせ、時には写経もした。こんな私に果たしてどれだけの功德やご利益があるのか。お前さんには答えられるだろう
さあ、言ってみてくれ。」

達磨：「無功德。そんなことを自慢し、恩きせがましいあなたには何のご利益もありません。功德無し」

武帝：「そうか。ならお前さんが悟った仏教の奥義、真理と何か。言ってみてくれ」

達磨：「廓然無聖。私のところは秋の空のようにカラリと晴れて一点の曇りもない。いつも晴れ晴れとして空であり無である」

武帝：「私の前にいる無礼者。お前さんは一体 誰れだ」

達磨：「不識。私が誰なのかそんなことは知らない。そしてあなたが誰なのかも知らん」

達磨は武帝との問答に噛み合わなかった。その後揚子江を渡り、少林山に籠って坐禅をすること九年（面壁九年）、俗世に背を向けて隠遁生活に勤しんだという逸話です。

わが寺の本堂内陣の柱には達磨大師の根本思想を表わした四聖句の聯（れん）が掲げられています。「教外別伝」「不立文字」「直指人心」「見性成仏」仏教とは本来理屈で解釈するものではなく単刀直入に人のところで理解をするもの。人間の本性、本能で悟ることが成仏であるとしたのが禅宗の宗旨です。

そもそも禅とは世間に背を向けて坐り、自分のかたち（スタイル）でもって眼前に向き合うことなのでしょう。孤独な自分自身と向き合い己れの真実、つまりは仏の自己を知ることなんだと思います。

先日敬老の日の深夜番組にジャズピアニストの秋吉敏子さんが出演されていました。御年 88 歳、ご主人の米国人サクソ奏者（78）と米寿、喜寿のお祝いを兼ねてのコンサートを東京上野で開催したとのことでした。

この中で、秋吉さんは「20 代の時の軽快に弾けた自分にはとても勝てない、でも、今の方がもっと深くジャズを音楽をその奥義を分かってきた、分かってきたと思いたい。」「ここまで生きてみるともう自分でコントロールできること以外はすべて気にしないの。ただもっと上手になりたいというところだけは失わず自分のスタイルは変えずに生きてゆきたい」と。

また、先日亡くたった女優の樹木希林さんは、全身転移（ガン）の記者会見では「もう自分自身がこの世からいなくなっても嘆き悲しむ親もいない。ある程度やるべきをやって悔いもない、後継者も育ってきた。それを考えると覚悟もできました。」と。

その後のボランティアでの講演活動。不登校、ひこもり、老人施設、障害者の方々へ。「人生で成功する人なんて先ずほとんどいないも同然。多くは挫折、挫折の連続。それでもどんなかたちであれ人間は生きているだけで価値あるもの。」と。

ひるがえって私も信念と覚悟だけは堅持して生きてゆきたいものだと思います。幸いいい流れは出来てきました。充実した日々であり円熟期にあるのだと思いたい今日この頃です。

最後に持論を申し上げます。再三、申し上げていることではありますが、これからは本当にお寺も住職もお坊さんも自ら選ぶ時代です。あなたに雇用されてはおりません。みんなと足並みを揃えるつもりはありません。一度旧檀信徒の素行の良くない人は突き離すべきです。教区寺院でも不埒な人とは袂を分かつべきです。とても住職に対する態度とは思えない非常識な人が増えました。隣組もなくしていくべきです。先日、地元信徒の支援者の方がお寺に来られてこんなことをおっしゃられました。「1億とか2億とか寄附しているのだったらわかるけど微々たるもので何を言っているのでしょうか。」と。見性院住職の罷免要求をされている方々には一刻も早く身を引いていただけますと幸いです。宗務所長にも謝罪をしてもらいたいものです。名誉棄損に相当します。

住職に葬儀をどうしてもしてもらいたいのなら帰依（弟子として仕えること。）することです。曹洞宗の葬儀は師弟関係を構築（成立）させることですから当たり前です。私はあくまでも教義に則ってものを言わせていただいているということを申し上げて一先ず筆を擱（お）きます。